


2023 年度 研究サマリー

研究会名称	透析治療研究会が実施する「慢性血液透析患者に対する通常療法またはスタチン系薬剤併用療法による介入比較試験 (DIALYSIS)」	
代表者所属	順天堂大学	
代表者氏名	富野 康日己	
<p>服薬行動誘導をはじめとする健康管理支援アプリの使用が慢性血液透析患者の死亡や、脳血管疾患にどのような影響を及ぼすかを明らかにする研究準備として、事前の透析患者の通信環境現状調査を実施し、そのアプリ利用の可能性を検証し、2023 年はその結果を報告した。</p> <p><u>2022 年度実施研究の内容と結果</u></p> <p>【方法】 試験のアウトライン (多施設、横断的探索的臨床試験) 維持透析を行っている患者に対して、①電子通信利用状況、②ヘルスリテラシーの評価、③健康情報収集に際してのインターネット利用状況、④フレイル状況のアンケート調査を行い、患者の臨床的背景、透析管理状況、調査日から過去 1 年間の入院歴に関して調べた。</p> <p>【結果】 慢性血液透析を行う 5 施設の 211 名 (男性 64 名) の患者からアンケートを得た。平均年齢は 65.9±12.5 歳、透析期間は 8.9±9.7 年であった。パソコンの保有者は、101 名、スマートフォン保有者 148 名 (70.1%) であり、いずれも有しない患者は 66 人 (31.2%) であった。利用用途は、通話、メール、Web 閲覧、ネットショッピングが多く、健康情報の収集源は 65.2% が検索サイトからで次いで医療者からであった。健康情報収集に際してのインターネット利用状況 (eHealth Literacy) は、総得点 40 点で 26.4±7.1 点と低く、特に情報の入手や評価のポイントが低い傾向であった。</p> <p><u>2024 年度研究計画</u></p> <p>先行研究を受けて、慢性血液透析患者の服薬指導をはじめとする介入によるヘルスリテラシーならびに生活自己管理能向上の誘導を図ることで、患者の生活の自立・生命予後考え、今後 2 つ臨床研究を準備している。</p> <p>① すでに壮年健常者用に開発した体調自己管理誘導アプリを、慢性血液透析患者用に改編し、このアプリを用いて服薬・透析管理の臨床的効果ならびに健康管理の行動変容の研究を準備中である。すでに慢性透析患者の情報通信環境の現状とヘルスリテラシーの関連性の検討を行い、透析患者の ICT 利用環境に関して検討済み (以下記述) である。</p> <p>② 慢性透析患者の音声・言語評価アプリを用いて認知機能を含めたフレイル状態の評価を行い、潜在的な透析患者の認知機能低下の現状の把握と透析患者に特徴的な認知・フレイル要素の抽出、透析自己管理との関連を検討する研究である。</p> <p><u>研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等)</u></p> <p>研究会に参加の施設の共同研究で慢性透析患者の透析通信機器の利用の現状のならびに利用状況とヘルスリテラシーについて実施し、この結果を 2023 年度の日本透析医学会で 4 編報告した。このうち 1 編を海外の学術雑誌に投稿中である。</p>		